

平成 30 年度 男女共同参画推進フォーラムに参加して

開催期間 : 2018 年 8 月 30 日 (木) ~ 9 月 1 日 (土)

開催場所 : 国立女性教育会館 (NWEC)

男女共同参画社会の推進とは「女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る」を意味します。

シンポジウム 「新しい暮らしのカタチ～働き方×幸福度」

グローバル化、IT化が急激に進んでいく社会の中で、Iターン、Uターン、副業、パラレルキャリアと働き方や価値観が多様化しています。自分らしい働き方を通して、世代を超えて地域の活力を生かしながら、地域や人との関係性を作り出しているパネリスト 2 人に聞きました。

パネリスト 阿部裕志氏 (株)巡の環 代表取締役
正能茉優氏 (株)ハピキラFACTORY 代表取締役社長、
ソニーモバイルコミュニケーションズ(株)
スマートプロダクト担当、
慶応義塾大学大学院特任教授
コーディネーター 萩原なつこ氏 立教大学社会学部教授

「働き方」

阿部氏 : 大企業から島根県の離島(海士町)に移住。人口2,300人の海士町で出来ることは、人と人の関係を大切にすること、自然を大切にすること、よそもの、バカ者が活躍できる環境づくりや、人づくりの挑戦、若者との交流を大切に島の文化の活性化を進めることでした。「一人ひとりが意志を持ち、未来を考える」をミッションに新しい生き方として①暮らし(人と自然のバランス)②仕事(人と人のバランス)③稼ぎ(働き方のバランス)の3つを満たす生き方を実践し、進めている。

正能氏 : 大学時代にハピキラFACTORYを起業、長野県小布施まちづくりインターンシップに参加、町の人たちがとても楽しそうに働き暮らしている姿を見て「大切なのは物理的な豊かさではなく、精神的な豊かさではと感じた。」女の子にわかりやすい形で地方に興味を持ってもらうには、地元の美味し

いものかわいいパッケージに入れて発信してはどうかとハピキラFACTORYを立ち上げ「作って、広めて、売る」販路を作る。

「幸福度」

阿部氏： 自由な時間が多いがすべて仕事につながっている。関係性でいえば、トヨタ社員の時より今はどこでも生きていけるし、何でもできる。「巡の環」という会社で他者との関係性を深めていると、いろいろ関係が生まれ仕事につながる。海土町のキャッチコピー「ないものはない」⇒「人として生きていく大切なものがある！ともに作る喜びがある」

正能氏： 自由だと感じます。それは成功や正解が自分で決められるからです。自分の好きなこと、大事にしていることを大切にしている。小布施町に行くと顔見知りがいっぱいいて、何かあった時、家族以外で心配してくれる人がいることは幸せであったかくて嬉しいと感じます。

「時間配分」

阿部氏： 仕事、暮らし、稼ぎのバランスに気を付けながら配分

正能氏： ミレニウム世代は震災を経験したこともあって「いつか」は来ないかもしれない、今仕事も家族も趣味も恋人もバランスよく時間を使いたいと考えている世代です。「～しなくちゃ」と思うときついけれど「～したい」と思えば楽しい。悲観は「気分」であり楽観は「意志」です。

「まとめ」

阿部氏： 町づくりはマッショではなくしなやかさが大切。男女の役割ではなく、バランスのとれるものさしを持っていると人生が幸せになれる

正能氏： まだまだ男性中心社会では、女性には人生のイベントが多く仕事を続けるのが難しい時が多いけれど、いろいろな働き方を持っていれば、それだけ選択肢があるので、その時に仕事を辞めなくても済む。パラレルキャリアは人生の選択肢を広げると感じています。

コーディネーター： これから多様な働き方が出てきて、働き方や暮らし方を大きく見直すきっかけになりますが、男性も生きづらさを抱えている中、男女ともに自分らしく働きやすく暮らしやすい社会を創ることがますます必要になっていきます。

特別講演

すべての男女が活躍でき働きやすく暮らしやすい社会を創る

講師：国谷裕子氏 東京芸術大学理事、キャスター

国谷氏が、自身が歩まれた道のりを通じて、制度の充実や環境の整備が進んでいる一方で、いまだに女性への人権上の差別や男女間の格差が存在していることをまず問いかけました。例えば性暴力を告発したら、逆に彼女に批判が集中した事件、セクハラを訴えた女性記者への報道の在り方、そして彼女たちへのネット上での攻撃。女性の医学部入学のような女性への不正差別など。日本社会の実態は依然として男女の格差、女性への人権上の差別が存在しています。また、NWE Cの行った「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」の数値を挙げながら、管理職を目指す女性は入社数年が経つにつれてどんどん減っていく現状を伝え、男女間や世代間の意識の差を改革していく必要性を強調しました。



後半では、国連が採択した2030年までに達成を目指す持続可能な開発目標「SDGs」について取り上げました。地球を環境破壊から守ること、「誰一人置き去りにしない (No one will be left behind)」ことを基本方針としているSDGsを世界の新しいものさしとして解説し、それぞれの自治体、コミュニティ、団体でこのゴールに沿って一体何が課題なのかを総合的にとらえ、そして私たち全員で解決していく重要性を伝えました。

今のままではこの世界は持続可能ではないことを受け止め、価値転換をしなければいけない。私たちは地球を救う機会を持つ最後の世代になるかもしれないと訴え、特に日本が遅れているゴール5（ジェンダー平等）のためには、女性がより声を上げて男女の格差を是正していくことが重要です。

ワークショップの部・パネル展示の部

「第4次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に、

- ① 働き方を考える
- ② 女性のキャリアを考える
- ③ 教育と男女共同参画
- ④ 安心・安全な社会づくり
- ⑤ 地域づくり・人づくり
- ⑥ 男女共同参画センターの役割
- ⑦ 国際協力とジェンダー

の7つのテーマを設定し、全国からの応募を受け、ワークショップ60件、パネル展示11件が採択されました。

その中の1つに選ばれたのが「『生野きらきら子ども食堂』の現状と見えてきた課題」で、高齢社会をよくする下関女性の会と地域住民有志など8人が参加し、発表とグループワークをしました。

参加者の感想として「子ども食堂の取り組みがしっかりされていて感心しました。しっかりとした方針・方向がぶれずに周りの方たちを巻き込んでされている事は、とても参考になりました。メディアの報道の仕方で影響がでることなど、様々な課題があることもわかり、とても楽しいワークショップでした。」とか、「子ども食堂の開設は素晴らしく、ぜひ継続頂きたいが本当に必要な支援が出来る枠組み作りの難しさを痛感しました。」など、参考になる意見をたくさん頂きました。



多世代ワールドカフェ200人会

前半は4人の大学生が、日頃学び取り組んでいる課題を発信しました。後半はそれらをきっかけに参加者が抱えている問題を出し合い社会とどのように主体的に関われるのか、世代を超えてどのように協働していけるのかをワールドカフェの手法を用い、席を移動しながら、3ラウンドの参加者同士の討議を行いました。最後に明日への一歩、行動宣言を共有しボードに貼りだし終了しました。いろいろな世代、地域、個人の背景を超えた交流ができました。